

参考資料

国立感染症研究所感染症情報センター
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)
でお知らせしている「感染症週報(第46週)」
からの抜粋です。



注目すべき感染症

◆感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、多種多様の病原体による疾患を包含する症候群である。現在、5類感染症定点把握疾患に規定されており、全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から週単位で報告がなされている。感染性胃腸炎の報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測されている(IASR, Vol 24, No 12, p321-322参照)。

2006年第46週の定点当たり報告数は16.4(総患者報告数49,464)であり、昨年(第46週)の同時期(第46週)の定点当たり報告数6.1、総患者報告数18,676)の2.5倍以上となっている(図1)。2006年は定点当たり報告数が最低値となったのは第33週であり、第34週以降第46週までの定点当たり累積報告数を都道府県別にみると、大分県(135.3)、熊本県(130.0)、福井県(127.9)、宮崎県(127.7)、三重県(114.5)の順となっているが(図2)、第46週のみ定点当たり報告数では、富山県(37.5)、宮崎県(29.9)、大分県(27.8)、群馬県(27.6)、三重県(26.9)の順であり(図3)、当初西日本を中心としていた流行が、中部地域や関東地域でも大きくなりつつあるものと推察される。

感染性胃腸炎の発生は、例年と比べても、流行の立ち上がり早く、現在も大きく増加しつつある。今後とも、その発生動向の推移には注意深い観察が必要である。

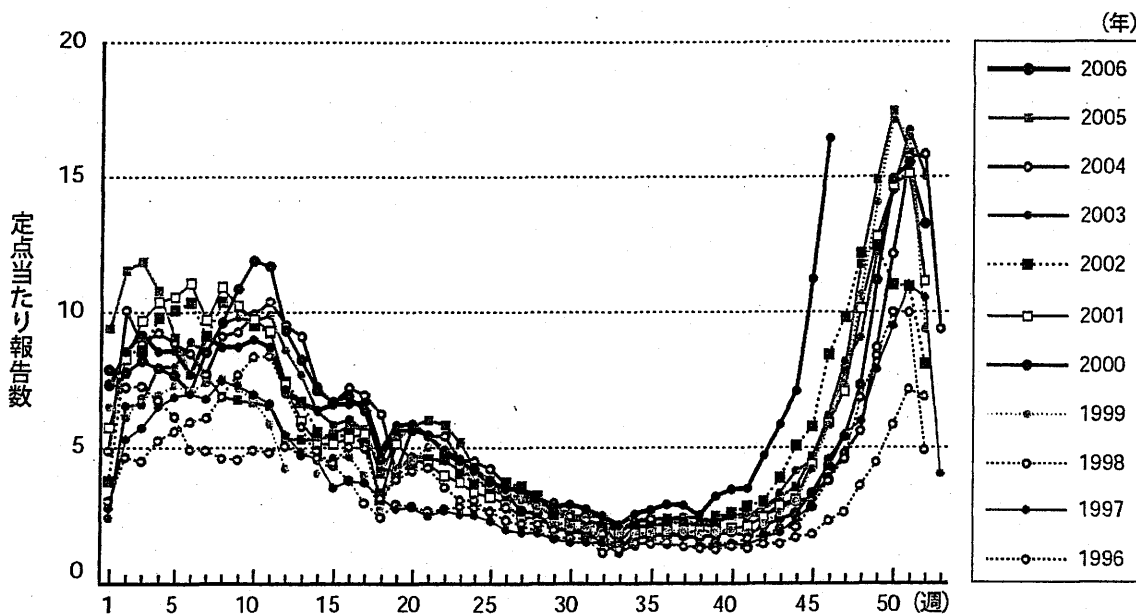


図1. 感染性胃腸炎の年別・週別発生状況(1996年~2006年第46週)

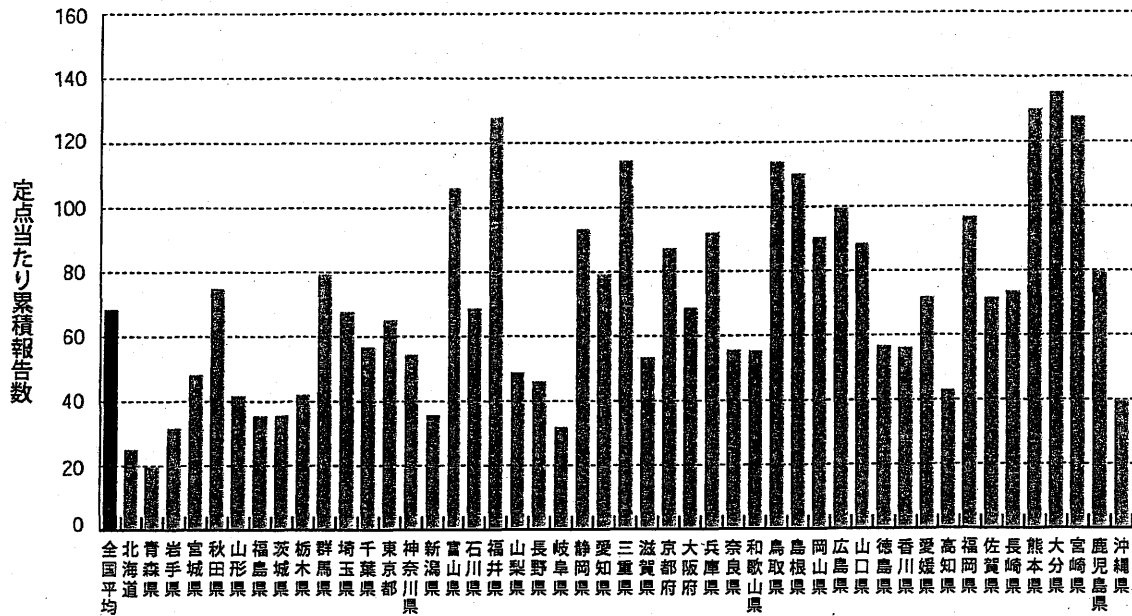


図2. 感染性胃腸炎の都道府県別報告状況(2006年第34~46週)

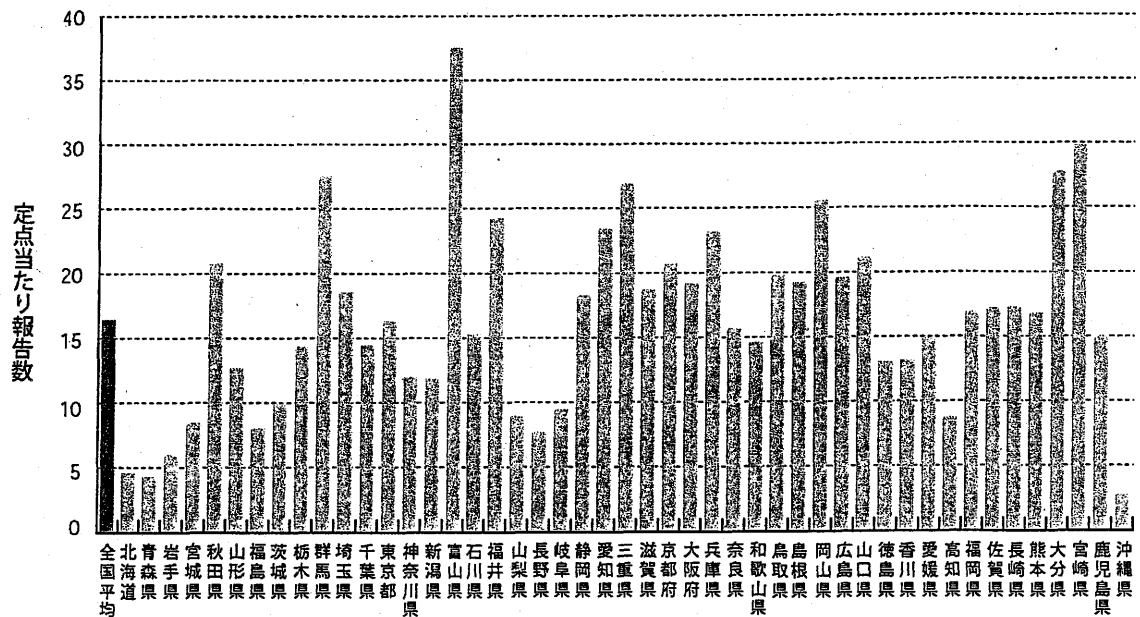


図3. 感染性胃腸炎の都道府県別報告状況(2006年第46週)



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.gov/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2006年11月23日現在報告分)

◆インフルエンザウイルス 2006/07シーズン

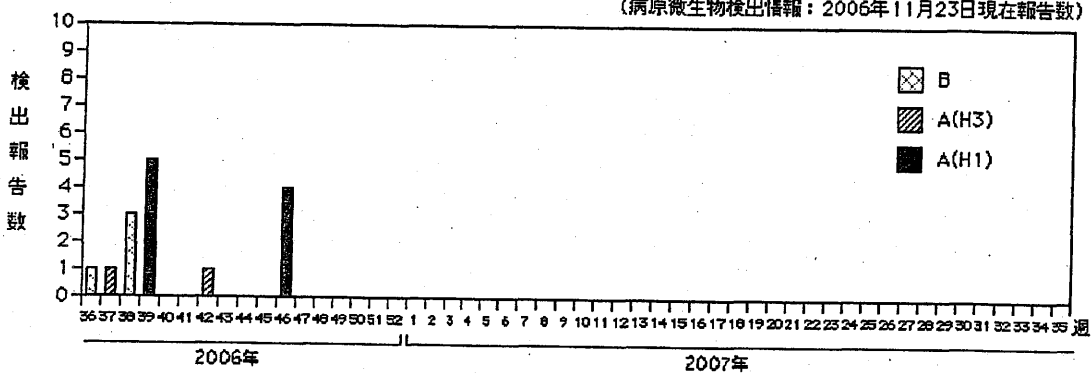
第36週に富山県でタイから帰国した小児からB型が分離され、第37週に兵庫県でフィリピンから帰国した成人からAH3亜型がPCRで検出された。また、第38週に滋賀県で1件、広島県で2件、B型が分離され、広島県では地域での小流行が報告された。

第39週には大阪府で香港から帰国した母親から感染した小児から2件、岡山県で中国から帰国した父親から感染した小児などから3件、計5件のAH1亜型(分離4件、PCR検出1件)が報告されている。

第42週には埼玉県で幼稚園集団発生例からAH3亜型1件(本号15ページ「速報」参照)、第46週には山梨県で家族内発生例からAH1亜型4件が分離されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2006/07シーズン

(病原微生物検出情報: 2006年11月23日現在報告数)



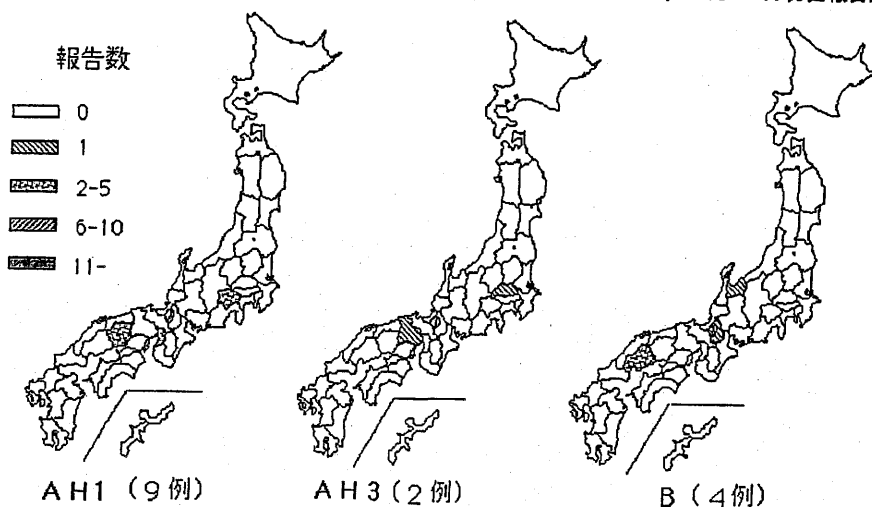
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2006/07シーズン

(病原微生物検出情報: 2006年11月23日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



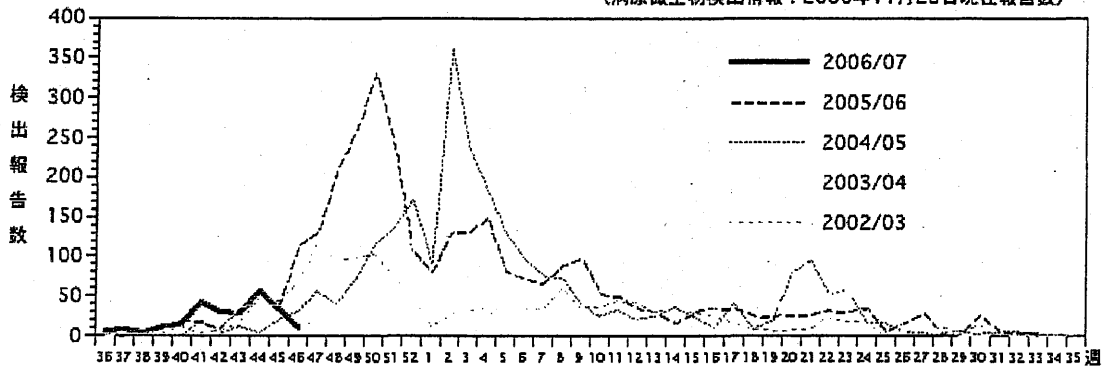
Infectious Agents Surveillance Report

◆感染性胃腸炎関連ウイルス 2006/07シーズン

例年に比べ立ち上がり早く、ノロウイルスgenogroup IIが増加している。genogroup IIは大
阪府、福岡県、秋田県、滋賀県、広島県、徳島県、愛媛県など16府県から計233件が報告され、
genogroup Iは千葉県、島根県、広島県から計3件、サポウイルスは熊本県、高知県から計4件、
A群ロタウイルスは東京都と京都府から計6件報告されている。

また、10月以降、genogroup IIによる施設内集団感染、食中毒などの集団発生の報告が増加
しており、9~10月に発生した27事例中、ノロウイルスの遺伝子型別まで実施された13事例はす
べてGII/4と報告されている。

週別SRSV(ノロウイルス、サポウイルス)検出報告数、過去4シーズンとの比較、2002/03-2006/07シーズン
(病原微生物検出情報:2006年11月23日現在報告数)



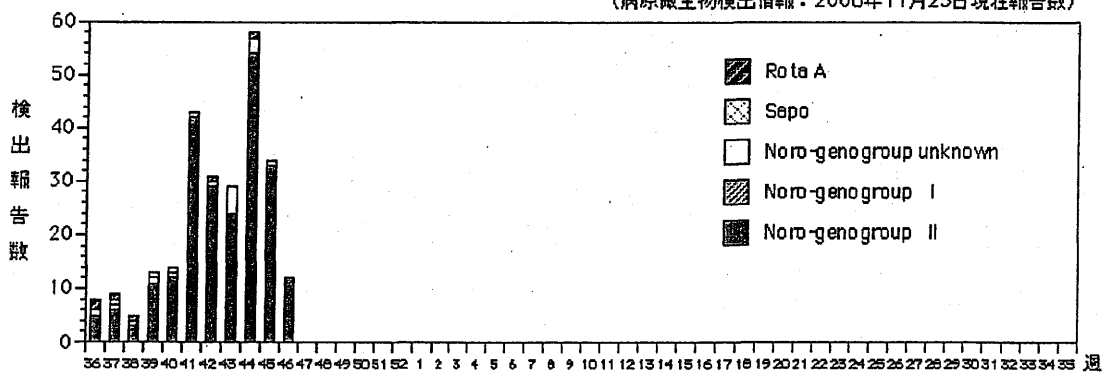
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

週別ノロウイルス&ロタウイルスの検出報告数、2006/07シーズン

(病原微生物検出情報:2006年11月23日現在報告数)

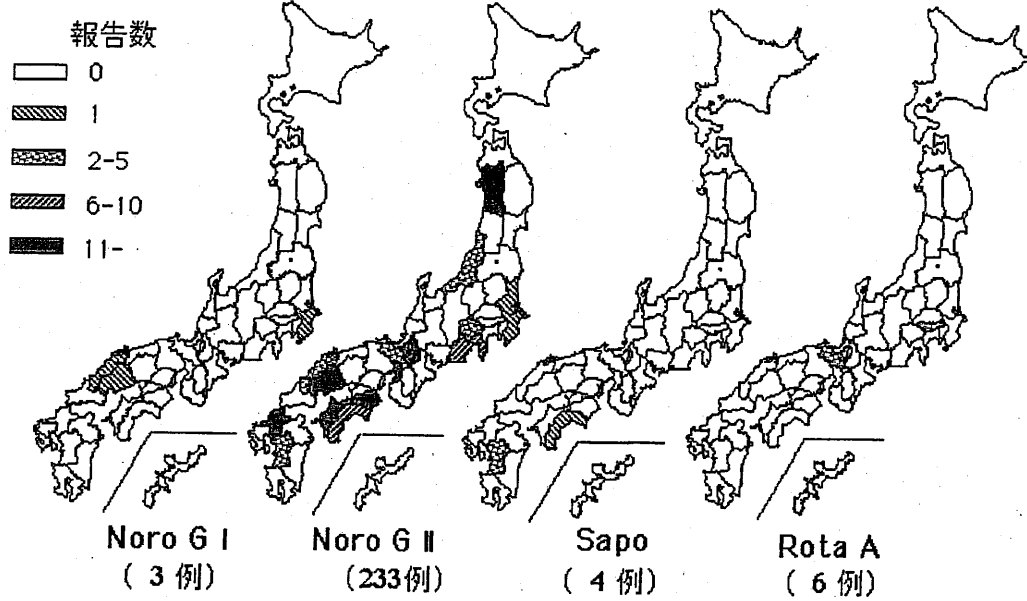


各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告状況、2006/07シーズン
 (病原微生物検出情報: 2006年11月23日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report